

2019年5月14日

東京大学芸術創造連携研究機構

東京大学芸術創造連携研究機構の発足について —アートで知性を拡張し、社会の未来をひらく—

1. 概要：

このたび東京大学は、2019年5月1日付けで芸術創造連携研究機構を発足させました。

芸術創造に関連する多様な分野の研究者が連携して、芸術家との協働・連携も行いながら、芸術創造に関する分野融合型の研究を推進します。同時に、芸術的感性の養成を通して多様な価値観や創造的な発想力を持つ人材を育成します。

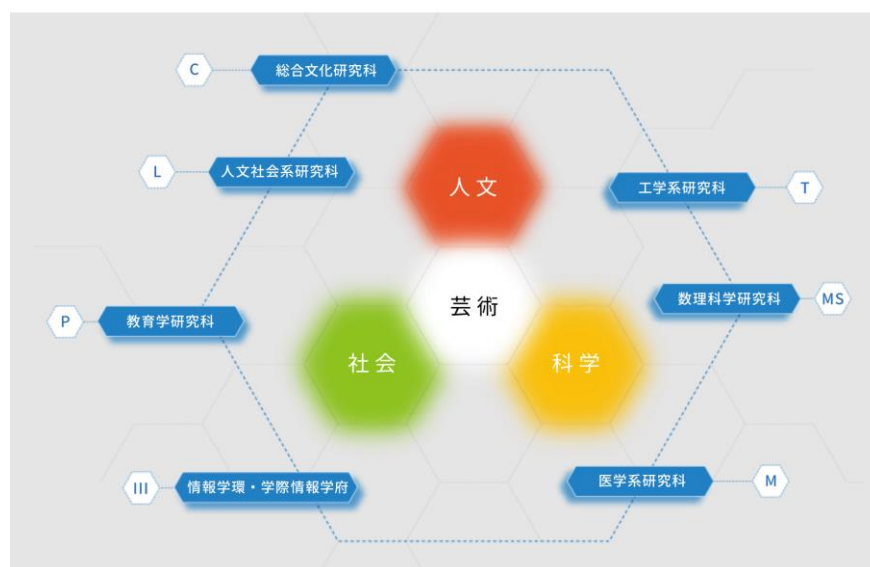
本機構は、総合文化研究科を責任部局として、医学系研究科、教育学研究科、工学系研究科、情報学環・学際情報学府、人文社会系研究科、数理科学研究科の7部局が連携します。

今日の芸術は、文系の人文知に加えて、理系の先端知も取り込みながら、多様な展開を遂げています。本機構は、芸術を通して知性を拡張し、文系・理系を超える分野融合型の研究を展開します。芸術的な感性は、人間の学習過程で大きな役割を果たしていることが判明しています。また、芸術は、多様な価値観を知って身につける上でも、とても重要です。分野融合型の芸術研究の成果を活かしながら、芸術実技を含む芸術教育を行うことで、多様な価値観や創造的な発想力を持つ人材を育成し、社会の未来をつくりたいと考えています。

機構長 河合 祥一郎 教授 (総合文化研究科)

副機構長 岡田 猛 教授 (教育学研究科)

加治屋 健司 准教授 (総合文化研究科)

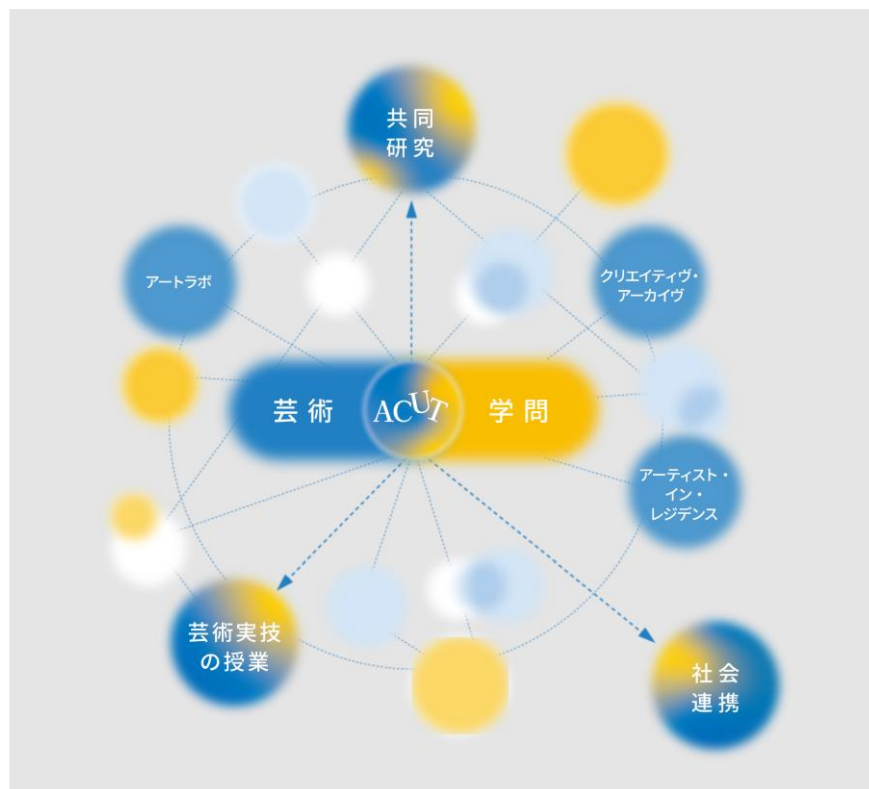


2. 活動内容：

本機構は、基本活動として共同研究を行うと同時に、さまざまな重点活動に取り組みます。

基本活動では、各部局の研究者が、国内外の研究者や芸術家と連携・協働しながら共同研究を行います。異分野間の対話を通して、新たな価値創造を実現します。重点活動として、「芸術実技の授業」と「社会連携」に取り組みます。アーティストによる芸術実技の授業を開講し、文理を超えた身体知による価値創造を実践的に教えます。そして、研究成果を社会へ還元すると同時に、社会との連携を通して新たな価値の共創を推進します。

そのほか、学生や教員による創作活動を技術的に支援し、科学技術を用いた共同教育研究の拠点となる「アート・ラボ」、芸術資源を収集・保存すると同時に公開・活用し、研究と創作を横断する価値創造を実現する「クリエイティブ・アーカイブ」、国内外の芸術家が滞在して創作活動を行い、本学の学術資源を可視化して世界に発信する「アーティスト・イン・レジデンス」といった重点活動を準備しています。



3. 構成部局の取り組み：

●総合文化研究科

文理融合のアプローチによる基礎研究および前期課程における芸術教育の充実

●医学系研究科

感性豊かな医療人・医学研究者の育成と医療・福祉への貢献

●教育学研究科

乳幼児教育・初等中等教育、高等教育・生涯学習における芸術教育のあり方の基礎的・実践的研究

●工学系研究科

建築や設計のためのデザイン思考と芸術的感性の育成

●情報学環・学際情報学府

情報を切り口とした芸術基礎研究とメディアアート等の情報テクノロジーをベースにしたアートの実践

●人文社会系研究科

芸術の理論的・歴史的研究と現代の創作活動との融合

●数理科学研究科

数理科学に基づく芸術創造のための基礎研究と芸術教育の充実

4. お問い合わせ先：

東京大学芸術創造連携研究機構

ウェブサイト：<https://www.art.c.u-tokyo.ac.jp>